

屋久島国割岳西斜面における県道改修に関する要望書

鹿児島県は県道上屋久永田屋久町線を主要地方道として改修しようとし、環境庁はその一部区間を公園道路として事業認定したと聞いています。この計画について、日本霊長類学会は、霧島屋久国立公園第一種特別地域である屋久島国割岳西斜面に分布するニホンザルの生息地の保全のために、以下のように要望いたします。

要望

県道の改修にあたっては、原則として現行の線形と幅を維持すること。

理由

1. 本地域には、推定 20 群 600 頭のニホンザルが高密度に生息している。西南日本の大部分の暖温帯林が有用針葉樹林に変えられてしまった現在、ニホンザルが多数群連続して暖温帯林に分布している日本で唯一の地域である。
2. この地域においては、互いに隣接する 5 群のニホンザルの群れと個体の生活史が十数年にわたって詳細に研究されている。それゆえ、この地域は日本の霊長類学の発展に不可欠なフィールドである。
3. 多種多様の動植物が生存する本地域の森は、日本固有の生物の進化の舞台であり、遺伝子貯蔵庫としても重要である。
4. 屋久島における野外研修、教育の一つの重要な場として、本地域を保全し教育材料として開拓することは、屋久島の将来計画の中で必要不可欠である。

国割岳西斜面は、以上の諸特徴を持つ文化財であり、ニホンザル研究の発展にとって枢要の地域である。現在、鹿児島県が計画している大規模な県道改修工事は、環境の連続性に大きな影響をあたえ、ニホンザルの生息環境を破壊する恐れが濃厚である。本学会は、上記の理由から当該地域のニホンザル生息地の保全を強く要望する次第である。

日本霊長類学会
会長 河合雅雄